

三内丸山通信



現在、縄文時遊館から展示室へと向かう園路沿い左手には小高い雑木林の丘が見えます。平成六年に、遺跡の広がり調べる目的で、試掘調査が行われました。その結果、この丘の頂上付近から南北一〇〇m、東西六〇mにわたり大量の土器・石器、土偶や装身具



調査の場所

5月20日から三内丸山遺跡の発掘調査が始まりました。今年度は、遺跡西部に位置する「西盛土」を中心に調査を行っています。



発掘調査進行中



発掘調査現場の様子

が出土し、赤土（ローム）を多量に捨てたことよってできた盛土の存在が確認されました。今年度の発掘調査地点は、盛土が見つかった雑木林の丘の周辺になります。

調査の目的

範囲の確認

これまでの調査では、展示室より北側にかけての盛土の広がり未確認でした。今回の調査では、トレンチと呼ばれる調査用の溝を展示室南側に設定し、その範囲内を発掘し現れる土の特徴から西盛土北端の確認を行います。

年代の確認

これまでの調査で、西盛

土の厚さは丘の頂上付近で約一・八mで、出土した土器の特徴から縄文時代前期末（約五、〇〇〇年前）〜中期末（約四、〇〇〇年前）頃のものであることが判明しています。今回の調査では、さらに細かく盛土を構成する各層に含まれる土器の年代を調べ、西盛土に重ねて捨てられている土層の詳しい年代の確認を行います。

土層の観察

土層の厚さや混入物の特徴を整理し、現在の厚さになるまでにかかった期間や一度に捨てられた土の量を調べ、盛土がどのように作られたのか調べます。また、盛土の中で火の焚かれたあ

とや、建物が建てられたあとながなが確認を行います。
土の回収・調査
捨てられた土の中には炭になった木が多量に含まれていることがわかっています。また、食料となった木の実や動物の骨、石器を作った際にできる小さな石屑などが見つかることも多く、小さな遺物の内容にも注意をして、当時の人々の暮らしについての情報を集めます。



埋設土器（子どものお墓）

家や墓の調査

西盛土の西端付近には盛土と竪穴住居跡が重なりあつて見つかっています。また、子供の墓として考えられている埋設土器が盛土の中で見つかっています。縄文時代のムラの中で、家・お墓・盛土がどのように広がり、それが長い年月の中でどのように変化したか調べていきます。

発掘調査委員会を開催しました。

三内丸山遺跡では、遺跡に関する学術的説明やそれに基づく発掘調査計画の検討を行うために発掘調査委員会を設けており、七月三日、今年度第一回目の委員会が開催されました。委員は、事務局から今年度の発掘調査について説明を受けた後、年代を知る手がかりとなる土器や炭化物が多量に見つかっている、西盛土の発掘現場において、竪穴住居跡や土器片が重なり合つて数多く出土している状況等について、指導助言を行いました。このほか、今後の特別研究推進事業についても話し合われました。



現地指導の様子



縄文遺跡の

魅力発信

平成二十一年一月五日、北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群がユネスコ世界遺産暫定リスト入りし、我が国の正式な世界遺産の候補になりました。青森県では、縄文遺跡群の価値や魅力を多くの方に知っていただくために、様々な取り組みを行っています。

七月十日には、八戸市立旭ヶ丘小学校で「未来へつなぐ青森県の宝」世界遺産縄文講座を開催しました。当日は三村申吾青森県知事が登壇し、各地の世界遺産を紹介したほか、世界遺産登録を目指す縄文遺跡の価値を説明しました。

子どもたちは、知事の子どもたちは、知事の問



縄文講座の様子

次は誰に答えてもらおうかな

いかけに元気いっぱい答え、会場に置かれた縄文土器を持ちたり、縄文人のマネキンと背比べしながら、あらためて縄文遺跡に興味を示していました。

「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」は、青森県、北海道、岩手県、秋田県の四道県にある十五の縄文遺跡で構成されています。この四道県の知事が平成二十一年六月一日、協定書を取り交わして、世界遺産登録に向けて協力しあうことを約束しました。

四道県は、これからの四年間で「世界遺産登録推薦書案」を作成する予定です。また、縄文文化を紹介する四道県共通リーフレットを五か国語で作成するほか、縄文文化を海外の専門家に紹介するための説明会をロンドンで開催します。

青森県でも、十月二十日から十一月二十三日まで特別展「北海道・北東北の縄文ひと・くらし・まつり・交流」を青森県立郷土館で開催します。この他、

県内の縄文遺跡を英語で紹介するガイドブックの作成や、フォーラムを開催するなど、様々な行事を予定しています。

縄文教室のお知らせ

三内丸山遺跡では、多くの方々に縄文時代について興味・関心をもってもらいたくために、体験学習「縄文教室」や講義・見学・体験を組み合わせた「三内丸山縄文講座」を行っています。縄文教室は小学校三年生以上を対象として、縄文時

代と同様の素材を用いて、道具を作ったり使ってみる教室です。今後、石斧を使って木を切り倒す石斧伐採体験、動物の骨を使った針作り、貝殻を使った海のアクセサリー作りを行う予定です。

また、新たな企画として高校生以上を対象に「三内丸山縄文講座」を始めました。今年度は全四回の予定で、第一回は「三内丸山遺跡と縄文文化」と題して、発掘調査現場の見学とともに、七月十八日に開催しました。九月以降、第二回「縄文時代のムラのようす」と遺跡見学、第三回「縄文時代の道具」と展示室見学、第四回「縄文時代のまつり」

と遺物整理体験（土器接合・拓本取り他）を行う予定です。縄文教室・三内丸山縄文講座ともに参加無料となっておりますので、事前に申し込みが必要です。お気軽に展示室（分室）にお問い合わせ下さい。



石斧体験

遺跡見学者

550万人達成

七月十日に平成六年八月の一般公開からの遺跡見学者が五五〇万人に達しました。当日、縄文時遊館において、マスコットの「さんまる」らに迎えられ、修学旅行で本県を訪れた北海道乙部町立栄浜小学校六年の片石直樹君が五五〇万人目の遺跡見学者となりました。



片石君には、記念証などの記念品が贈られました。片石君は、「三内丸山遺跡のことは授業で勉強しました。びっくりしたけど、うれしい」と話して、クラスメイトと一緒に遺跡や展示室を見学しました。

第1回企画展

「さんまる・はじまる
～三内丸山ムラの始まりを探る～」
のお知らせ

■場所 企画展示室
■期間 7月24日(金)～11月3日(火)

1500年間続いたとされる巨大集落三内丸山遺跡のはじまりの姿はどのようなものであったのか。環境・年代測定・土器編年などの最新成果をもとにその実像に迫ります。

三内丸山遺跡のご案内

休館日 12月30日～1月1日
遺跡の開園時間
午前9時～午後6時(6月～9月)
午前9時～午後5時(10月～5月)
交通機関
青森市営バス
JR青森駅から 番乗り場「運転免許センター行き」、「三内丸山遺跡」で下車
料金300円

展示室の定時案内
1日3回(約20分)
(10時50分～、午後1時50分～、午後3時50分～)
問い合わせ: 017-781-6078
ボランティアガイドの定時案内
1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと、最終は午後4時から
問い合わせ: 017-766-8282